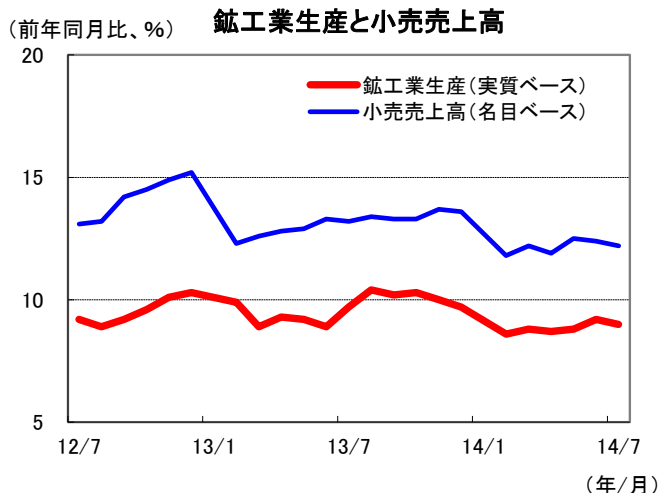


今日のトピック 最近の指標から見る中国経済(2014年8月) 回復が一旦足踏み、景気支援策の拡充期待も

ポイント1 生産・消費の伸びは鈍化

生産は4-6月期の加速の反動も

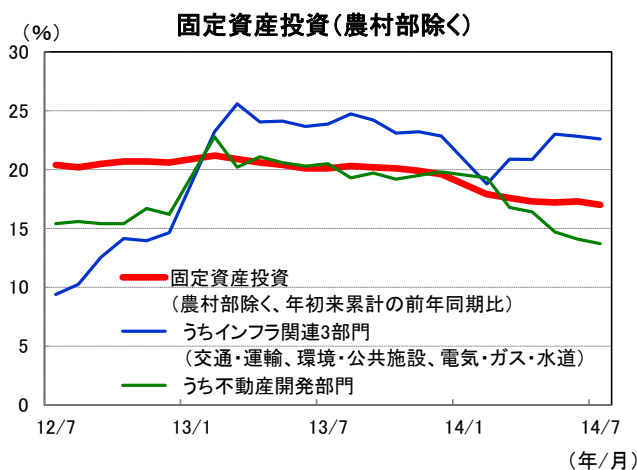
- 7月の鉱工業生産は前年同月比+9.0%となり、6月から若干鈍化しました。主な製品別では、けん引役だった自動車の伸びが同+11.2%から同+10.5%へ、経済活動と関係が深い発電量が同+5.7%から同+3.3%へ鈍化しました。
- 生産が減速した背景には、企業が景気支援策を見越し、4-6月期に早めに増産した反動もあったと思われます。ただし、景況感や在庫状況からは、回復基調が続いているものと見られます。
- 7月は小売売上高も、同+12.2%と鈍化しました。一方、賃金は年+9%台(都市部)で増加を続けており、今後も消費は底堅く推移しそうです



ポイント2 投資も鈍化、今後には期待

新規着工計画が回復へ

- 1-7月累計の固定資産投資(農村部除く)は前年同期比+17.0%と鈍化しました。インフラ関連部門が同+22.6%と大きく伸びた一方、価格調整もあり、不動産部門が同+13.7%へと低下を続けたことが要因です(ともに全体の約2割を占める)。
- 一方、春先まで12%台で伸び悩んでいた新規着工計画は同+14.5%へ加速してきました。今後も、景気支援策による積み上がりが期待されます。



(注)期間は上下グラフともに2012年7月~2014年7月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット マネジメント作成

今後の展開 景気支援策の拡充に期待、年後半は金融緩和も若干強化の可能性

- 上記以外にも、社会融資総量など、8月発表の多くの指標は市場予想を下回りました。内需をテコ入れするには、景気支援策の拡充が必要との期待が高まっています。安定した物価、余力のある財政状況などが、こうした期待を支えています。
- 一方、7月の貿易黒字は過去最高の473億米ドルとなりました。外需は当面景気を支えそうです。
- 中国株は、景気下振れを回避できるとの安心感などから上昇傾向にあります。この株高を踏まえたうえでも、歴史的に見て、また、先進国と比較して、割安なことに変わりはないと見られます。
- 今後の株価は、改革の進展や企業業績の回復期待、相対的に高い成長力への評価などから、緩やかな上昇基調を続けるものと思われます。

ここも チェック!

2014年08月13日【キーワード No.1,391】中国の政治スケジュール(中国)
2014年08月06日【デیلیー No.1,929】中国株式市場の動向について

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。